

## 1 広陵町の公共施設の総量

### 広陵町の公共施設数

# 96施設

(うち、文化・社会教育系施設 41施設)

### 延床面積

# 118,063.76m<sup>2</sup>

(うち、文化・社会教育系施設 15,029.8m<sup>2</sup>)

(広陵町 公共施設再配置 (再編) 計画対象施設)

# 広陵町の公共施設

## 2 主な施設の整備状況

昭和40年代～  
昭和50年代半ば  
(1965年～1978年)

- ・西小学校 (昭和43 (1968) 年)
- ・役場庁舎 (昭和46 (1971) 年)
- ・**中央公民館 (昭和48 (1973) 年)**
- ・古寺町宮住宅 (昭和49 (1974) 年)

昭和50年代半ば～  
平成2年  
(1979年～1990年)

- ・東体育館 (昭和54 (1979) 年)
- ・中央体育館、西体育館、北小学校(昭和55(1980)年)
- ・北体育館 (昭和56 (1981) 年)
- ・真美ヶ丘第一小学校 (昭和59 (1984) 年)
- ・真美ヶ丘中学校 (昭和61 (1986) 年)
- ・真美ヶ丘第二小学校 (昭和62 (1987) 年)
- ・広陵中学校 (平成2 (1990) 年)

平成3年以降  
(1991年～)

- ・真美ヶ丘体育館 (平成4 (1992) 年)
- ・はしお元気村、**図書館 (平成9 (1997) 年)**
- ・総合保健福祉会館 (平成13 (2001) 年)
- ・東小学校 (平成14 (2002) 年)
- ・クリーンセンター (平成19 (2007) 年)

人口増加に合わせた施設整備

ポスト高度経済成長期の昭和40年代から昭和50年代 (1965～1984) に整備された施設が多い。

広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会

# 広陵町の公共施設概況

## 3 公共施設の抱える課題

昭和40年代から昭和50年代(1965~1984)にかけて多く整備された施設の**老朽化対策**

少子高齢化が進み、扶助費の増加、税収の減少  
**財政状況がより厳しく**

人口減少により、**施設がオーバースペックに**

施設用途に対する、**社会ニーズの変化**

# 広陵町の公共施設概況

## 4 公共施設の取組

### 広陵町公共施設再配置（再編）計画

**1** 計画的な予防保全による  
公共施設の長寿命化と、  
安全、効率的な維持管理

- (1) 計画的な予防保全の実施
- (2) 施設機能の維持・向上
- (3) 安全かつ効率的な維持管理の実施

**2** 社会情勢や住民ニーズを踏  
まえた公共施設再配置（再  
編）の推進

- (1) サービスの適正化
- (2) 施設総量の縮減
- (3) 資産の有効利用

**3** 管理運営の効率化によるコ  
スト削減と民間活力の導入  
による施設運営の最適化

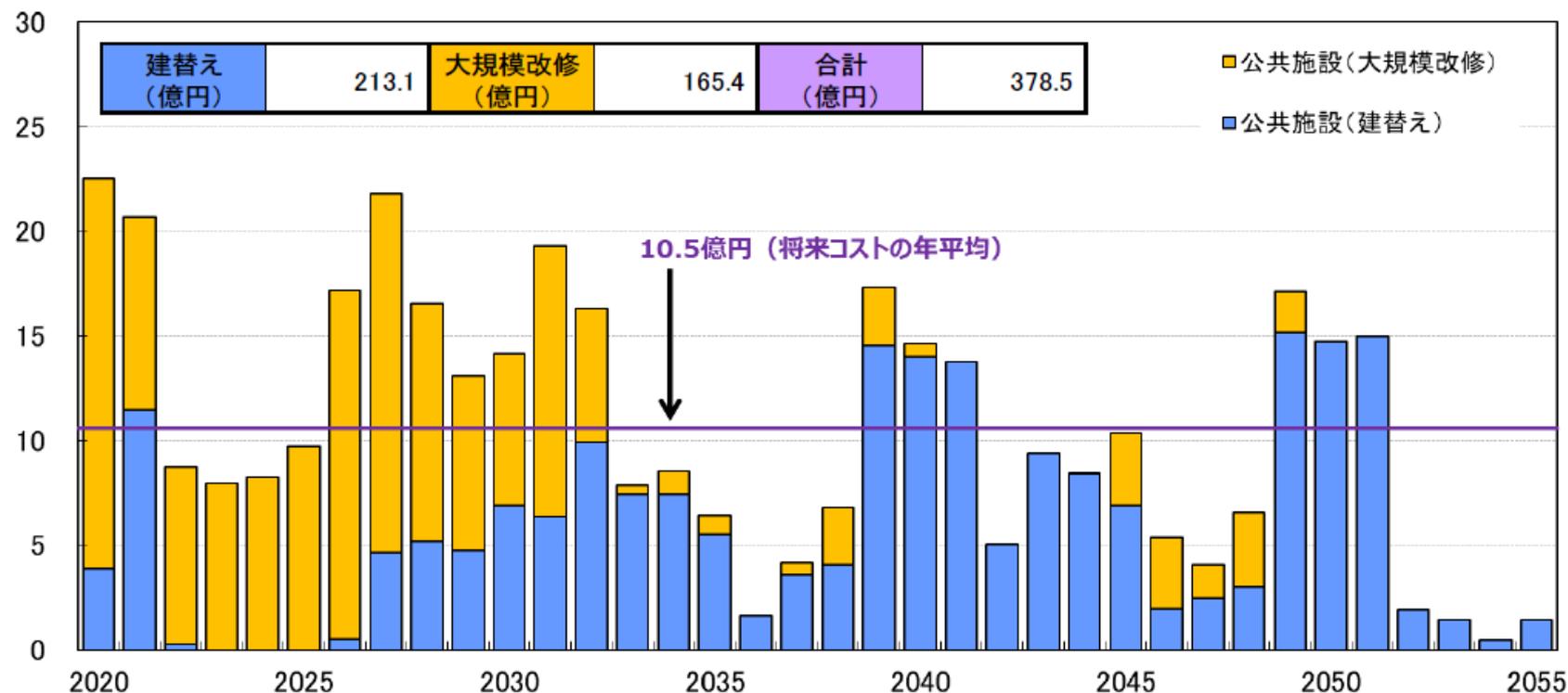
- (1) 民間活力導入の検討
- (2) 維持管理費用等の縮減
- (3) 受益者負担の適正化

# 広陵町の公共施設概況

## 4 公共施設の取組

### コストシミュレーション（現状維持）

(億円)



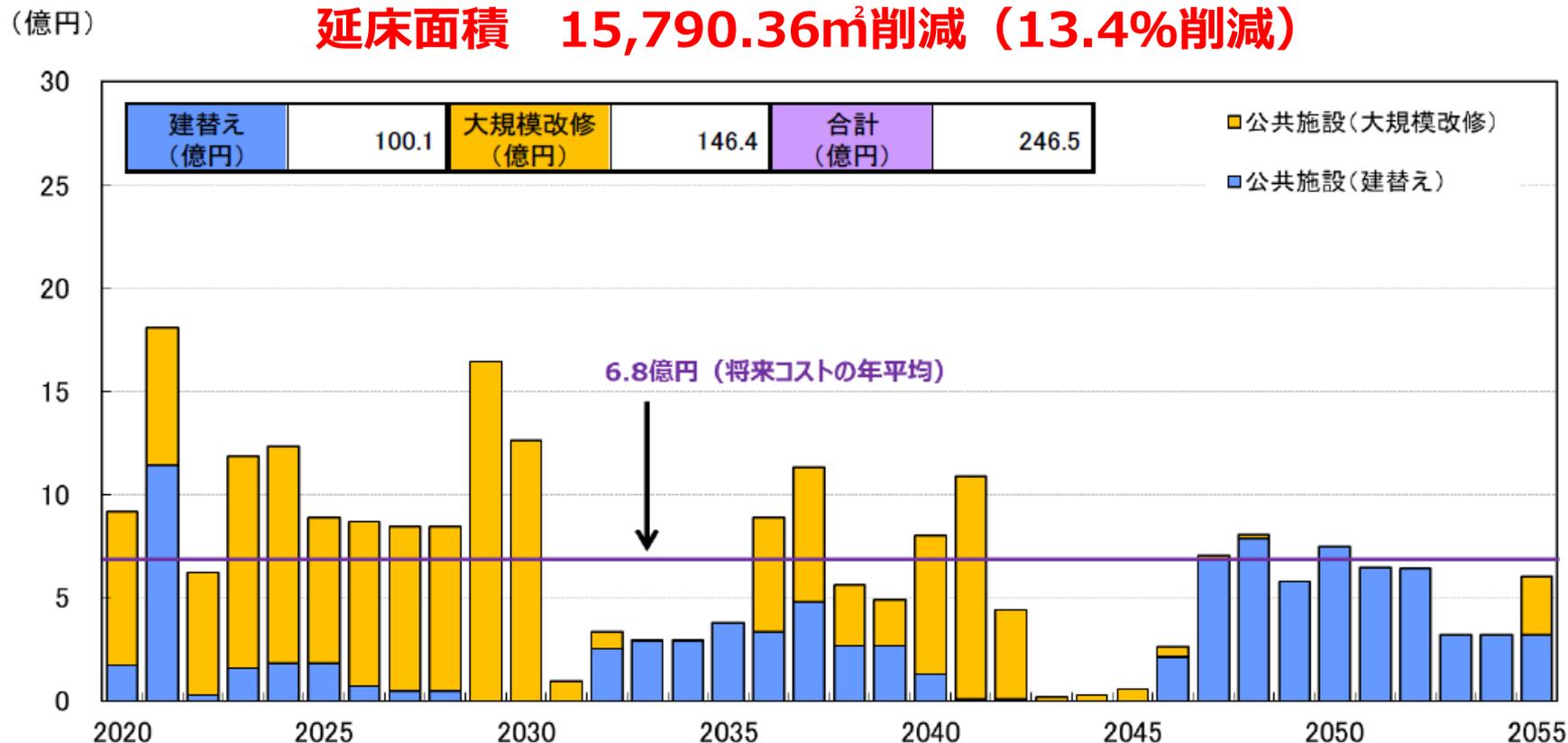
**合計 378.5 億円 年平均コスト 10.5 億円**

# 広陵町の公共施設概況

## 4 公共施設の取組

### コストシミュレーション（再編計画実施）

延床面積 15,790.36㎡削減（13.4%削減）



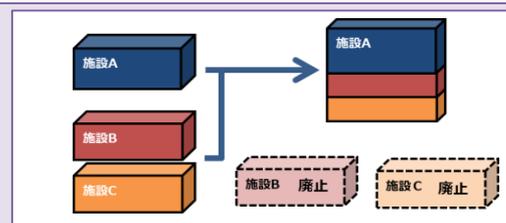
132億円削減  
合計246.5億円  
3.7億円削減  
年平均コスト6.8億円

# 広陵町の公共施設概況

## 5 新しい公共施設のスタイル

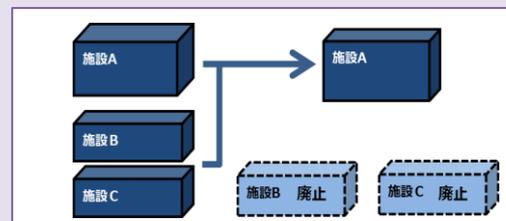
### 1 複合化

既存の異なる種類の施設において、一方の施設にある余剰スペースを用途変更し、もう一方の施設の機能を統合



### 2 集約化

既存の同種または類似する施設を一方の施設に機能集約し、もう一方の施設を廃止



### 3 民間活力の導入

運営管理上、民間のノウハウを活用することが適している施設は、民間活力導入（譲渡を含む。）の推進

### 4 利用者負担の見直し

公共施設に関する費用は、利用者だけでなく利用していない人も負担していることから、受益者負担の観点からの見直しの実施